

# 岡部陸上幕僚長北部方面隊初度視察



第737号  
平成29年8月2日

方面総監統率方針  
**任務完遂**  
方面総監要望事項  
**使命の自覚  
錬磨即応  
地域との連携**

陸上自衛隊  
北部方面隊広報紙  
発行：北部方面総監部広報室  
北部方面隊  
ホームページ  
<http://www.mod.go.jp/gsdf/nae/>



儀じようを受ける陸上幕僚長（札幌駐屯地）

北部方面隊（総監山崎陸将）は、平成29年7月18日、札幌駐屯地、丘珠駐屯地及び函館駐屯地において、岡部陸上幕僚長の初度視察を受けた。

岡部陸上幕僚長は、札幌駐屯地総監部庁舎前において、第3施設団第105施設器材隊特殊器材中隊長上野3佐の指揮する儀じよう

隊116名による栄誉礼及び儀じようを受けた後、方面隊の現況について方面総監から報告を受けた。この際、陸上幕僚長から「北部方面隊がしっかりと隊務運営を行っている事を確認した。北部方面隊の役割は足腰の強い部隊を育成する」とも

に、作戦基本部隊をしっかりと機能させること、方面総監部の視察を巡視では、陸上幕僚長が直接隊員を激励し、「函館の勤務には慣れたか？」と新隊員に問いかけると「はい、慣れました」と元気よく答えていた。

元氣よく答えていた。函館駐屯地においては、第28普通科連隊第3普通科中隊長原田3佐の指揮する儀じよう隊70名による栄誉礼及び儀じよう、状況報告受け、隊内巡視を実施した。居住隊舎の陸上幕僚長は、翌日函館空港から離道された。本初度視察が終了した。

本視察において陸上幕僚長から頂いた指導事項等について、全隊員に徹底するとともに、今後の方面隊の隊務に反映する。

（袴腰山）へ移動し、殉職者を慰霊した。事故現場では、当時捜索に携わった隊員が殉職者を慰霊するために置いていた石が4つ並べられており、それぞれに献花が行われ四柱の冥福を祈るとともに、全員が事故の絶無を誓った。



記念撮影（前列中央左陸幕長）



状況報告（方面総監部）



回収機体確認（丘珠駐屯地）



隊内巡視（函館駐屯地）



史料館視察（函館駐屯地）



現地での献花（袴腰山）

## 平成29年度陸幕課目指定演習

### 北海道トレーニングセンター事前検証終了



指揮所を確認する評価員



評価支援で参加するOB

北部方面隊は第11旅団長（甲斐将補）を検証実施部隊長として、6月19日から7月2日までの間、矢白別演習場において、平成29年度陸幕課目指定演習（HTC事前検証）を行った。

本演習は、陸上自衛隊で最大規模の演習場を有する北海道の良好な訓練環境を活用し、道内・外の部隊がより実践的に実動演習を行い、客観的・計数的に統裁・評価支援する機能を整備し、平成32年度に本格運用を開始することを目的に、平成26年度から4年間検証を行ってきた。



陸上幕僚長から2級賞状を授賞

今回の事前検証では陸幕等を交えた検証部及び運営支援のための所要の要員と部外力（OB）を加えた検証訓練評価支援隊を編成した。検証では交戦訓練装置Ⅱ型（パトラⅡ）を装着し、本検証により、訓練評価支援隊（仮称）の体制及び運営に必要な基盤を明確化することができた。

第11旅団は、担任部隊として4年間にわたる本検証において、多大な成果を獲得した功績により、陸上幕僚長から第2級賞状が授与された。

# バトラを身に纏い真の戦い方を追求

## 第2師団 i-TESC 普通科連隊 近接戦闘訓練



バトラを装着し敵を意識する隊員

各部隊は、全隊員が一丸となつて常に敵を意識した実戦さながらの行動により、任務達成に邁進し、所期の成果を取めた。訓練期間中、方面総監が統裁施設を視察し、本訓練の統裁実施状況及び各部隊の戦闘評価状況について確認した。

第2師団(師団長 高田陸将)は、5月21日から6月8日までの間、上富良野演習場において平成29年度近接戦闘訓練(i-TESC)を実施した。本訓練は、普通科連隊が、対向方式により努めて実戦に近い状況下で訓練を実施し、諸職種協同及び近接戦闘能力の練度向上を目的としている。特に訓練では、戦闘展開、攻撃前進、突撃、陣内掃討等一連の行動における連隊の実員指揮及び交戦訓練装置II型(バトラ)を使用した。第1次運営に第3普通科連隊(攻撃)、第25普通科連隊(防御)、第2次運営では、第5旅団から第6普通科連隊が参加(攻撃)し、第26普通科連隊(防御)との協同訓練を実施した。また、第5旅団に対して統裁要領を普及し、次年度以降の協同訓練等における統裁基盤を確立した。更に、本訓練において無人偵察機(UAV)を新たに運用し、偵察任務・警戒監視任務において有効であることを確認した。



綿密な作戦のため正確な作戦図を作成

# 東千歳へ矢白別へ、陸を走り海を渡れ！ 平成29年度長距離距離機動訓練

第7師団(師団長 田浦陸将)は、平成29年6月16日から7月7日までの間、各種輸送手段を活用した矢白別演習場への長距離機動訓練を実施した。本訓練は、戦略的に運用される方面隊として、陸上、海上及び航空の各種輸送手段を活用して戦略機動能力を向上し、即応機動する陸上防衛力の構築に寄与することを目的として実施された。人員約1400名、車両約150両、航空機8機が参加した。

本訓練においては、人員の鉄道及び一般車両による輸送、90式戦車、89式装甲戦車などの主要装備品の大型トレーラー等による陸上機動の他、東千歳駐屯地から苫小牧港、釧路港から矢白別演習場の間の一般道における自走、民間船舶による海上機動、多用途ヘリコプターによる空中機動を実施した。特に、釧路港から矢白別演習場までの重車両による一般公道自走は、今年度が初の実施であり、関係機関との緊密な調整により、一件の事故も無く全車両が矢白別演習場へ到着した。矢白別演習場は、引続き師団演習を実施して、各部隊の協同要領を確立し、フォースプロバイダーとしての戦略機動能力を向上させた。また、師団は9月中旬まで訓練を継続し、陸上輸送を主体に全車両が帰還する予定である。



協力会に見送られ駐屯地を出発 (東千歳駐屯地正門)



民間船舶による輸送 (釧路港)



大型トレーラーによる輸送 (釧路港)



一般道における自走 (釧路市)

## 技術継承のために邁進～潜入し崖を制覇せよ～

### 遊撃基幹要員行動訓練



険峻な絶壁にて訓練する隊員

北部方面混成団冬季戦技教育隊(隊長 柳田1佐)は、前段訓練7月13日から14日、後段訓練7月18日から20日の間、真駒内駐屯地及び赤岩山(小樽市)において、遊撃基幹要員行動訓練を実施した。本訓練は、冬季戦技教育隊に所属する冬季遊撃課程訓練基幹要員に対し、必要な戦闘戦術能力を向上させるとともに、課程教育における指導法及び安全管理能力の向上を目的として実施した。前段訓練では、真駒内駐屯地において、アンカー構成・確保引き上げ等の山地潜入に必要な基礎的訓練を実施した。更に後段訓練では、赤岩山において、遊撃1コ班を編成し、班の基本的行動、特に、地上潜入における一連の行動を演練するとともに、山地潜入(登はん)における背のう引き上げ要領について検証した。終了後、研究会を実施し、本訓練における成果、教訓事項を、今後の課程に反映するとともに、戦術行動に関する認識の統一を図った。



背のう引き上げ要領の検証

# 前期教育修了くそれぞれの職種へく

## 一般陸曹候補生課程後期 新隊員特技課程教育へ

北部方面隊では、6月下旬、新隊員前期教育を担当した各部隊において、第10期一般陸曹候補生課程及び平成29年度自衛官候補生課程の修了式を行った。

4月に各駐屯地の門をくぐった新隊員は、多くの仲間と出会い、互いに励まし合い、教官・助教の厳しくも愛情のある指導を受け、逞しく成長した。

修了式では、家族や知人、多数の来賓、入隊へと導いた各地方協力本部の代表が見守る中、入隊式とは見違えるほどの堂々たる行進と統一された動作を披露し、来場した家族等はその姿を頼もしく見守っていた。家族との祝賀会食にお

いては、教育間を振り返る映像の放映、自らの制服姿を撮影した写真の家族への贈呈、徒歩による観閲行進など各部隊が趣向を凝らした企画を披露した。

出席した家族等は「学生の時とは見違えるほど成長した。ここまで子供を成長させてくれた自衛隊に感謝します」と述べ、新隊員の代表は、「ここまで頑張ったのは、親身に指導してくれた班長等、そして応援してくれた家族のおかげです。これからも同期の絆を大切に、これから自衛官としてますます頑張ります」と述べた。

前期教育において、陸上自衛官として必要な資質の涵養と各職種共通の基礎的な知識及び技能を習得した新隊員は、職種が決定し、それぞれの職種部隊の教育隊に配置され、約3カ月



一般陸曹候補生課程前期修了式（真駒内）



それぞれの思い出を胸に



自衛官候補生課程修了式（真駒内）

## 互いの力を合わせて能力を向上！ 北部方面警務隊・北部方面会計隊 協同訓練



不審者への対応要領を訓練

北部方面会計隊（隊長 濱松 1佐）及び北部方面警務隊（隊長 大西 1佐）は6月17日、21日、北海道大演習場東千歳地区において、協同訓練を実施した。

本訓練は、銀行業務中の会計隊員は、不審者に扮した隊員の迫りある言動等に対して怯む事なく冷静に対処するとともに、警務隊に通報し、一報を受けた警務隊は直ちに警務官を現地に派遣し、刃物を持って暴れる不審者に対して日頃から練成している逮捕技術により不審者を拘束して、銃刀法違反の現行犯で逮捕し、貴重な資金を守りぬいた。

今回は、2度目の協同訓練であり、「会計隊と警務隊の連携要領のあり方」、「暴行を伴う不審者に対する武器使用の判断」、「逮捕時における留意事項」等、前回の協同訓練に続き貴重な教訓を得た。両部隊は、引き続き協同訓練を重ね、本訓練で得た成果をさらに発展させ連携強化を図る。

### ～心の健康相談室～

#### （第188回）人生に潤いを与える言葉

人の癡迷の処に遇いては  
一言を出してこれを提醒し、  
人の急難する処に遇いては  
一言を出してこれを解散す。

（菜根譚 前集・142）

即ち「（とかく清貧で物質的に救うことができなくとも）迷っている人に会うとちょっと言葉をかけてその迷いから呼びさましてやり、また危難に苦しんでいる人に会うと、一声かけてその苦しみから救ってやる」というのです。つまり、「言葉」によって精神的な救いを施す、温かい思いやりの言葉はいつまでもその人の心に残るのです。これは「無量功德（限りない功德）」という仏教的な表現がなされています。

心の健康相談・メンタルヘルス・カウンセラー

根本和雄

## — 我らは、指揮所を守りぬくために戦う —

### 北部方面総監部付隊 北部方面音楽隊 協同訓練



暴漢の対処要領

また、一つの事象に対する対処行動を複数提示し最も適切と判断した対処要領を隊員に選択させ、一番多く選択されたものを実動で展示し、その選択の可否について分析検討するなど工夫を凝らした訓練を実施した。最後には、隊員から法務官に対し各種対処に関する積極的に質問する等任務に対する高い意識を確認できた。8月の第2回目の訓練でさらなる高みを目指す。

本訓練は、9月に行われる北部方面隊総合戦闘力演習に向け行われた第1回目の訓練で、各隊員は、各種不測事態発生時の武器使用について訓練した。総監部付隊が「出動準備」、「治安出動」、「警護出動」の各

北部方面総監部付隊（隊長 道川 3佐）及び北部方面音楽隊（隊長 村田 3佐）は、6月28日、札幌駐屯地において、協同して警備訓練を実施した。



襲撃者に対する射撃

# 北の駐屯地 その歩み 第34回 稚内分屯地

## おいでよ日本の てっぺんへ!

稚内分屯地は、日本最北の町「稚内市」に所在し、ロシアのサハリン島南端「クリリオン岬」まで、わずか60km程の距離に位置し日夜国境監視にあたっている。また、陸海・空自衛隊と情報本部が同一地域に所在する、自衛隊でも珍しい分屯地である。

稚内市は、人口約3万5千人の宗谷管内最大都市で、漁業や酪農業の盛んな町である。ほっけ、ほたて、たこ等の水産加工品を中心に、「たこしやぶ」「稚内牛乳」「宗谷黒牛」など、稚内ブランドの食べ物も多く、人気を博している。分屯地隊員食堂でも「宗谷黒牛」を使用したステーキやハンバーグは、隊員にも好評である。また、観光名所も多く、日本最北「宗谷岬」をはじめ、北海道遺産の「宗谷丘陵」や「北防波堤ドーム」などが有名であり、礼文島・利尻島へのトランジット拠点として



米空軍稚内基地の台上から見た家族居住区と利尻山 (1970年頃)

でも、毎年約50万人の観光客が訪れる観光都市である。  
オホーツク海と日本海に面し、気候は、年間平均気温約7℃と寒冷で比較的风が強い。夏は平均気温約20℃とクーラーいらずで、転入してきた隊員の多くが、勤務環境の良さに感激するほどである。



分屯地メニュー (宗谷黒牛ステーキ)

分屯地周辺には、熊シカ、キツネ等の野生動物も生息しており、特に隊舎周辺や官舎などで十数頭のエゾシカの群れを目にする事も多く、自宅に居ながら「サファリパーク」に行った気分を味わえる。

視察等、同49年に海上自衛隊が移駐し、現在の態勢となっている。陸上自衛隊は、第301沿岸監視隊と第342会計隊稚内派遣隊、第301基地通信中隊稚内派遣隊、北部情報保全隊稚内情報保全派遣隊及び名寄駐屯地業務隊稚内管理班が所在し、約100名の小規模な分屯地だが、全隊員がそれぞれの顔を知らず、アットホームな雰囲気にも包まれた、少人数ならではの分屯地である。

## 隊員自主募集による賞詞受賞者

**3級賞詞** (5名以上の入隊実績)

第7師団 陸士長 小林 墨希 第5旅団 1等陸曹 河瀬 隆稔

**4級賞詞** (3名～4名の入隊実績)

北部方面総監部	2等陸佐 清水 学	第3施設団	1等陸曹 鳴海 智弘
第2師団	陸士長 高橋 主	北部方面航空隊	1等陸尉 柴田 真一
第2師団	陸士長 本間 寛	北部方面航空隊	准陸尉 石 子一美
第2師団	陸士長 渡部 美徳	北部方面航空隊	2等陸曹 坪倉 洋介
第5旅団	2等陸曹 中里 良身	北部方面後方支援隊	1等陸曹 佐々木 茂
第5旅団	陸士長 廣川 真哉	北部方面通信群	准陸尉 岡田 憲和
第11旅団	陸士長 木村 健祐	北部方面衛生隊	陸士長 堀野 愛
第11旅団	陸士長 石原 健祐	岩見沢駐屯地業務隊	1等陸曹 増田 ひろみ
第1高射特科団	陸士長 藤 混騎	丘珠駐屯地業務隊	陸曹 高木 浩二

**5級賞詞** (1名～2名の入隊実績)

420名が受賞 (北部方面隊内合計)

## 地本だより (札幌地方協力本部)

### 新さっぽろ自衛隊フェスタ2017



初めて乗ったオートバイ (装備品) にわくわく

自衛隊札幌地方協力本部(本部長 篠村 陸佐)は、7月8日、新さっぽろサンピアザ「光の広場」において、「新さっぽろ自衛隊フェスタ2017」と銘打って広報活動を行った。

このような自衛隊単独でのイベントを部外施設で行うのは、艦艇広報や音楽演奏会を除けば初めての試みであり、おなじみの制服を着た札幌地本キャラクター「モコ」との触れ合いに加え、第11旅団(旅団長 甲斐 将補)の支援を受け、第11音楽隊(隊長 山下 1尉)のコンサートや第11偵察隊用オートバイの展示、砕氷艦「しらせ」元乗組員のトークショー、南極の水展示、結び、モールの信号、フェイスペイント等の各種体験コーナー、戦闘糧食の展示、災害派遣関係の写真展示等工夫を凝らしてイベントを行い、約1500人の来場者を得て大盛況であった。

普段は自衛隊を見る機会が少ない新さっぽろにおいて、この機会を通じて自衛隊への関心を高めることができ、来場した子供達から「大きくなったら自衛官になりたいです」とのコメントも寄せられた。また、募集相談を持った適齢者が訪れ、自衛官等の制度や魅力について説明を受けていた。札幌地本は、これからも様々な機会を通じて自衛隊の魅力を広報していく。

多くの学生で賑わったブース



今月の一枚

北海道の短い夏を大いに楽しみましょう。

## 編集後記

7月に入り、道内各地で記録的な暑さが続き、本格的な夏の到来に胸躍らせている方も多いのではないのでしょうか。北海道の夏といえば、やはり浜辺でのキャンプとBBQが定番です。海水浴場で家族や友人と一緒にキャンプをしながら、焼肉を食べたり海水浴を楽しんだり、海鮮焼きを食べたりは花火を楽しむなど、炭火でのBBQは朝晩晩食でも飽きません。考えただけでもよだれが出ます。とは言え、今年の夏は梅雨前線などの影響で天候が日々目まぐるしく変わり、突然道路が冠水するほどの大雨になるなど、なかなか思い切ったレジャーに行けないものもかじかを感じている方も多いと思います。そんな時は、インドアで天候に左右されない「ボウリング」なんてどうでしょうか。老若男女誰もが楽しめる数少ないスポーツです。昔とった杵柄で、子供達のヒーローになれるかも知れません。皆様の部隊でも、家族会や懇親会などの福利厚生行事の時に実施してみても如何でしょうか。